

8発子第1号

(令和8年9月)

発行：宇治市乳幼児教育・保育支援センター

アドレス：nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp

乳幼児教育・保育推進事業 通信 ～令和8年度 発達・子育て支援専門部会～

令和8年7月27日（月）に、令和8年度第1回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会 発達・子育て支援専門部会を開催いたしました。
部会の様子をお知らせします。



令和8年度第1回の主な内容

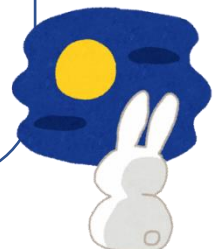
検討

- (1) 支援を要する子どもやその保護者への対応力をさらに向上できる手法等について
- (2) 就学前施設等と療育施設がさらなる連携を行っていけるような手法等について

専門部会とは



「研究・研修」「保幼小連携」「発達・子育て支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施等について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したもの。



○ 検討



(1) 支援を要する子どもやその保護者への対応力をさらに向上できる手法等について

今年度にセンターにおいて作成した専門職による園訪問支援のチラシ等の内容及び今年度の園訪問支援の実施状況についてセンターから報告を受け、支援を要する子どもやその保護者への対応力をさらに向上できる手法等について意見交換等を行いました。

【部会員の意見等】

(園訪問支援のさらなる活用について)

- ・困りごとについて担任が悩んでいても、管理職にまで届かないケースもあり、園訪問支援の利用にまで至らないこともあるのではないかな。
- ・「気軽に申し込める」ということも含めて周知しないと、忙しい現場において申し込むまでのハードルが高いと感じてしまうのではないかな。
- ・園訪問支援の活用は、実際のケースを基に相談に乗ってもらうことができ、職員にとって実践的な研修の場となっている。

(保護者対応の悩みについて)

- ・子どもに関する園での課題を保護者に伝える際、園と保護者の受け止め方に違いがあり、共通認識を持ちにくいことがある。
- ・「担任が困っている」ではなく、「子ども自身が困っているんだ」「保護者と共に考えていこう」というスタンスや、保護者の心情に寄り添った言葉の選び方・アプローチが重要である。
- ・専門的な知識だけではなく、それぞれの現場で行っている細かな対応の方法等を共有することが、対応力の向上につながるのではないかな。
- ・保護者と話をする時は電話やノートが手軽ではあるが、すれ違いが起こりやすくなるので、「共に考える」というスタンスが伝わるように直接会って話すほうが良い。
- ・移行支援シート作成の際、保護者との関係性を壊したくないという恐れから中途半端な形で学校に伝えてしまうこともある。



(2) 就学前施設等と療育施設がさらなる連携を行っていきけるような手法等について

「発達・子育て支援は推進されているが、施設や施設類型ごとに子どもの発達観のずれがある」という発達・子育て支援の現状を踏まえ、各施設での日々の疑問点や困りごと等を共有し、就学前施設等と療育施設がさらなる連携を行っていきけるような手法等について意見交換等を行いました。

【部会員の意見等】

- 子どもの発達観をどのように捉えるか、それをどう方法論に落とし込むかといった点について意見交換していくことが重要である。
- 療育に通うことで子どもに良い変化が見られるので、園と療育施設が繋がって情報を共有することは、非常に有効な手立てになると思う。
- 園から「小さな集団の療育に入れたい」という声があっても、空いていないため入れないことがあるというジレンマがある。
- 施設類型（保育所・幼稚園・こども園）の違いだけでなく、園ごとに何を大事にしているかというカラーの違いも大きいと感じる。
- 大きな集団である保育所・幼稚園・こども園、小さな集団である療育施設ともに子どもにとってそれぞれ大きな学びがある。大切なのは障害の有無ではなく、子ども自身が判断できる力を育てること、大人が何を教えてあげるかということではないか。
- 0歳児からの一つひとつの活動に深い意味があり、子どもをよく見つめることの大切さを皆で再確認していく必要があるのではないか。
- 集団の中で孤立してしまう子が、療育の場に行って発散し、認めてもらえる場所を見つけることで、自己肯定感の向上やトラブルの減少等、如実に子どもに良い変化が見られる。
- 「何をやっても構わないよ」と子どもを受け止めてくれる場所があるからこそ、園での支援が機能する。トレーニング的なアプローチをいきなり行くと、逆効果になる可能性もある。
- 共通理解のためには、会議室での議論だけではなく、可能であれば療育施設を見学させてもらうのも良いのではないか。



宇治市乳幼児教育・保育支援センターとは

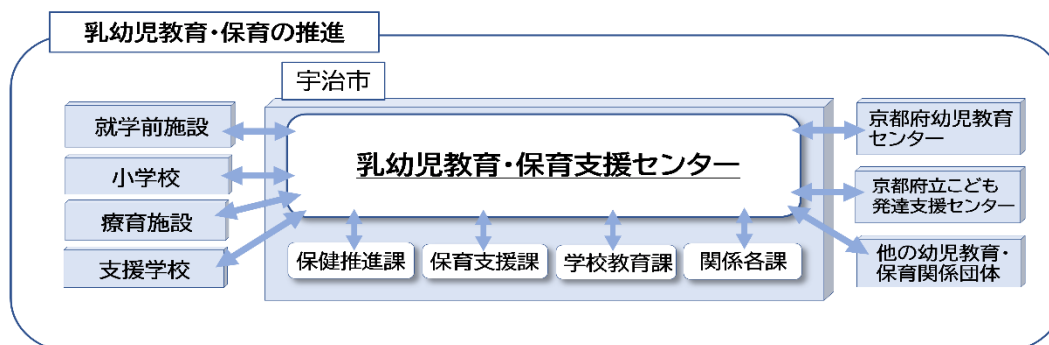
宇治市乳幼児教育・保育支援センターは、全ての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築し、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有するとともに、将来を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、次の3つの機能に基づく施策を推進することにより、保育士、教諭等の人材育成を図り、もって乳幼児教育・保育の質の向上に資することを目的として、令和7年4月に開設しました。

<3つの機能>



宇治市では、センターにおいて、就学前施設、小学校、療育施設及びその他の関係機関が連携・協働できるようコーディネートすることにより、施策を推進します。

<連携・協働のイメージ>



宇治市乳幼児教育・保育推進協議会とは

すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築すべく、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有し、連携、協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を支援するため、設置したもの。